



プロジェクト名称

## 笑顔のまち なこそ復興プロジェクト

### プロジェクト活動概要

本プロジェクトは福島県いわき市勿来地区を対象としています。勿来地区は、東日本大震災の影響により大きな被害が生じた地区です。また、福島第一原発事故の影響により双葉町から避難してきている住民もいます。これらの要因から、復興があまり進んでいない現状があり、現在も様々な復興活動が行われています。そのため、自分たちも地元 NPO や他大学と連携しながら、地元住民に密着した復興活動を行っていきます。

### プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① 他団体と連携して、被災地の現状を多くの方に知ってもらう。
- ② twitter のフォロワー数, Facebook のいいねの数を 100 まで増やす。
- ③ 「なこそ お散歩マップ」を発行する。

①多くの方に勿来地区の現状を知ってもらうため、震災のシンポジウムで発表をさせていただいたり、図書館でポスター展示を行ったりしています。それにより、外部団体との新たなつながりを構築することができ、多くの方に被災地の現状を知ってもらうことができました。

②震災のシンポジウムの参加や勿来地区でのイベントの実施により、多くの方が自分たちの団体のページにアクセスしていただき、「100」という数字を超えることができました。

③マップを製作するにあたり、現地調査等を行いました。また、地元の商店会の方々やシンポジウムで知り合った方々、地元 NPO の方々と協力しながらマップを作成しています。

### 活動状況報告 & 活動写真

活動期間：2017 年 1 月 1 日 ~ 3 月 31 日

#### ①結イレブンへの参加（2017 年 1 月 11 日）

福島の復興に携わっている方々や復興に興味をもっている方々が毎月 11 日に会議している、結イレブンというイベントに参加しました。

この会議には、東日本大震災支援全国ネットワークの方々、アースウォーカーズの代表の方、NPO「元気になろう福島」の理事長、ジャパンプラットフォームの方など異なる活動をしつつも同じ福島の復興を願う方々が集まって、今後の復興のあり方について話し合いました。そのなかで、アースウォーカーズの代表の方と自分たちの団体がこれまでの自分たちの活動について発表を行ないました。今回の会議の議題は、「大震災の風化を超えてニーズに迫る」という内容で、震災の風化を超えたニーズについて全体で考えたとき、「コミュニティ」という言葉がもっとも多くあがり、今本当に必要なものは部外者が加入することによる、コミュニティ形成が重要であるという意見が多く出ました。私たちの団体も今後、目標としているのは、復興公営住宅を中心としたコミュニティ形成というところだったので、私たちの目標の重要性を改めて感じる事が出来ました。また、私たち団体の活動内容を紹介した際に、発表を聞いて、自分たちの活動に協力したいと言ってくれる方もおり、改めてこの学生プロジェクトが今まで積み重ねてきたことの必要性と今後の活動の重要性について再認識することが出来ました。



イベント時の様子

## ②なこそその希望プロジェクト2017 ～6年目の3.11 伝統文化で偲ぶ追善供養～ (2017年3月11日)

東日本大震災から6年がたった今、様々な事を考えさせられるイベントでした。イベントが始まる前にイベント準備の手伝いをさせていただきました。舞台の設置やテントの組み立て、掃除、キャンドル作りなどをし、なこそ復興プロジェクトさんからカレーや豚汁などを振る舞っていただきました。イベント開始時には僧侶による法要が行われ、震災のあった14時46分に海に向かって黙祷をし、その後、水供養を行いました。とても寒く風も強い中、舞台では人形浄瑠璃や能が行われました。夜には私たちが地元の方と共に作ったキャンドルとトゥインクルハートの点火、点灯を見ることができ、とても綺麗でした。イベントの最後には希望の花火が打ち上げられました。明るい未来を象徴するような迫力があり美しい花火でした。



イベント時の様子

## ③未来マップの製作

私たちはこれまでの成果をマップという形にまとめ、勿来地区の方々に自分たちの地区について考えてもらうきっかけを作るために「未来マップ」を作成しています。地域住民の方々がマップを使ってまちを歩き、復興の様子を知りながら、まちの活性化をしていくことが最終的な目標です。マップ作成のために、勿来地区の飲食店や景色の良いところの調査に現地に赴いたり、地域誌を読み込んで見どころや隠れた歴史スポットを見つけたりしています。未来マップを作成するにあたり、勿来地区にどのようなお店があるのか、どのような景色の良い場所があるのか調べるために現地調査を行いました。今回の現地調査ではなこそ未来マップでは『若者の視点』を基準に調査を行いました。今回の現地調査の結果を元に今年度中に「なこそ未来マップ」を完成させたいと考えています。



現地調査前の様子



現地調査中、立ち寄ったお店



## ④くぼたんけんマップの作成

昨年 10 月、勿来地区に住んでいる方と双葉町から移り住んでいる方との交流イベントとして、本学プロが主催で「くぼたんけん 2016」を行いました。その中で参加者の方々から多くの意見を頂くことができたため、それらの意見を参考にし、私たち学生目線で新しくまちあるきマップを作成しました。マップ作成において、年配の方でも使いやすいように「文字の見やすさ」、「情報の簡略化」を重点的に考えました。また、マップに載せる飲食店のメニューの情報や景観が良いポイント等を再確認するため、3 月 12 日に窪田地区で現地調査を行いました。現地調査では、これまで気がつかなかったポイントや、新たなお店の情報を発見することもできました。



現地調査前の様子

現地調査中の様子

## 今後の活動計画、目標、意気込み

### ①大宮祭（2017 年 5 月 21 日）

今年は、これまでの自分たちの活動を知ってもらうポスターの展示と福島県の名産のお菓子と勿来の方仕入れているコーヒーをカフェという形で出店します。これにより、自分たちの活動や被災地について知ってもらうこと、福島県のお菓子や勿来の方が仕入れているコーヒーを出店し、復興に少しでも貢献することを目的としています。

### ②マップ作り

#### 1. 未来マップ

現地調査の結果を元にマップを作成していて、完成に近づいています。完成後は、勿来の方に確認してもらうことでアドバイスをもらい、お店の許可取りも同時進行で進めていきます。最終的には印刷したものを勿来地区の公民館等で置いてもらうことを検討しています。

#### 2. くぼたんけんマップ

こちらのマップも現地調査の結果を元に作成していて、完成に近づいています。完成後は、窪田地区の商店会長や窪田地区の地元の方などに確認を取り、最終確認が終わり次第印刷を行い、勿来地区の住民と双葉町の住民に配布する予定です。

### ③避難者と地元交流イベント

昨年実施したくぼたんけんのような交流イベントを企画していきます。今後は、関係者他の調整の上、日程やイベントの内容などをつめていく予定です。

震災から 6 年が経ち、復興の形が目に見えてくるようになって来ました。その中で、自分たちの活動の形も変化してきています。これからは、コミュニティ形成や被災地の活性化、防災訓練の実施などソフト面での支援を行なっていくことで、復興の力になれるような活動を行って行きたいと考えています。